

障害者虐待防止に係る本県の取り組み

1 平成30年度第2回市町村実務担当者会議の開催状況

(1) 開催日時

平成30年12月18日（金） 午後2時30分から午後4時まで

(2) 伝達した内容

①平成29年度の障害者虐待に係る対応状況等について

- ・ 障害者虐待に係る対応状況（確定値）及び発生要因の分析と対策について
- ・ 都道府県別に見た障害者虐待の状況

②平成30年度上半期の障害者虐待に係る対応状況等について

③事前質疑について（別添1）

- ・ 養護者による障害者虐待の対応について
- ・ 使用者による障害者虐待の対応について

④平成30年度障害者虐待防止・差別解消推進協議会における構成員意見の伝達

⑤平成30年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修について（別添2）

⑥障害者差別解消法に基づく対応要領の策定状況、差別相談事例について

2 愛知県における障害者虐待防止研修の開催状況について

○相談窓口職員向け

研修日程・会場・定員

日程	会場	定員
12月26日（水）	愛知県社会福祉会館 第1研修室 名古屋市東区白壁一丁目50番地	150名

研修プログラム

時間	所要時間	研修科目	講師等
9:10~9:30	20分	受付	
9:30~9:35	5分	オリエンテーション	愛知県障害福祉課
9:35~10:55	80分	障害者虐待防止法の概論と権利擁護（講義）	特定非営利活動法人 愛知県相談支援専門員協会理事
10:55~11:05	10分	休憩	
11:05~12:30	85分	障害者虐待対応における市町村職員の使命（講義）	愛知県内市町村障害者虐待防止担当職員
12:30~13:30	60分	休憩	
13:30~16:30	180分	障害者虐待対応における相談窓口職員の初動対応における役割（演習） ※途中休憩あり	特定非営利活動法人 愛知県相談支援専門員協会理事

※9月4日台風の影響により延期になった研修

障害者虐待防止に係る本県の取り組み

○相談窓口職員向け研修のアンケート結果

出欠状況	
出席者数	98人
欠席者数	12人

(出席者に対するアンケート回収率 96%)

講義1: 障害者虐待防止の概論と権利擁護

講義2: 障害者虐待における市町村職員の使命

講義3: 障害者虐待における相談窓口の初動対応における演習

○問1 各講義等の感想

- よかった
- どちらかといえばよかった
- どちらでもない
- どちらかといえばよくなかった
- よくなかった

	1	2	3	4	5
講義1	78 (83.0%)	14 (14.9%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
講義2	56 (60.2%)	32 (34.4%)	5 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
演習	57 (63.3%)	27 (30.0%)	5 (5.6%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)

○問2 理解度

- 理解できた
- どちらかといえば理解できた
- どちらでもない
- どちらかといえば理解できなかった
- 理解できなかった

	1	2	3	4	5
講義1	73 (77.7%)	17 (18.1%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
講義2	50 (53.8%)	36 (38.7%)	7 (7.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
演習	40 (44.4%)	38 (42.2%)	10 (11.1%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)

○問3 今後実施が必要な研修

- 地域移行・地域定着
- 差別解消
- 虐待防止
- モニタリング
- 協議会
- ケアマネジメント
- 人材養成
- 基幹相談支援センター
- 障害児相談
- その他

	重複あり
1	32 (16.6%)
2	20 (10.4%)
3	25 (13.0%)
4	14 (7.3%)
5	20 (10.4%)
6	11 (5.7%)
7	24 (12.4%)
8	19 (9.8%)
9	25 (13.0%)
10	3 (1.6%)

○問4

	行政職員	相談支援	その他
職種	35	58	1

	1年未満	1～5年	6～10年	11～15年	16年以上
経験年数	17	45	17	6	9

	初任あり	初任なし	現任あり	不明
相談支援従事者 研修受講の有無	32	32	28	2

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
年代	10	32	32	17	2	0	1

	男	女	不明
性別	34	59	1

○感想・意見等 (一部抜粋)

- ・演習は日頃の業務を見直す機会になった。計画に落とし込むところで重要な“権利擁護”の部分、見落としている部分があるかもしれないと反省した。
- ・行政の方の実際の対応事例、所感などお聞きできよかった。演習は少し駆け足だったが、具体的に考えることができ勉強になった。
- ・これまで虐待事例が少なく、職場としてもスキルに不安があるので、この研修はありがたい。
- ・障害者の権利擁護に対する意識が改めて高まった。虐待対応の流れが一応理解できた。
- ・個々のケースに対応するため、演習も複数ケースあると良いと思う。
- ・他市町と協同で対応しなければいけないケースが増えてきたが、温度差があり戸惑うことも多い。対応や理解が限りなく等しくなっていくといい。
- ・虐待を認められた事例（特に事業所）に対し、市町村はどんな対応・支援を行ったのか知りたいと思った。
- ・色々な情報を得ることができ、大変参考となった。具体的なケースの話が一番参考になる。

障害者虐待防止に係る本県の取り組み

資料 3

○障害者福祉サービス事業所等職員向け

研修日程・会場・定員

日程	会場（1日間）	定員
11月26日(月)	名古屋国際会議場1号館 4階 会議室141・142 名古屋市熱田区西町1番1号 (名古屋会場)	200名
12月21日(金)	西三河総合庁舎 10階 大会議室 岡崎市明大寺本町1-4 (岡崎会場)	200名

研修プログラム

時間	研修科目	講師等
9:00～9:30	受付	
9:30～9:35	開講式・オリエンテーション	障害福祉課職員
9:35～11:05	研修の目的と障害者虐待防止法の概要(講義)	社会福祉法人ぬくもり福祉会 飯野 恭央 氏
11:05～11:15	休憩	
11:15～12:15	虐待防止のためにあなたができること(演習)	社会福祉法人豊明福祉会 大谷 真弘 氏
12:15～13:00	休憩	
13:00～14:00	自身の支援の振り返り ～新城福祉会の実践～(演習)	社会福祉法人新城福祉会 松原 宏昌 氏
14:00～14:10	休憩	
14:10～15:10	アンガーマネジメントを活かす(演習)	社会福祉法人成春館 鎌田 博幸 氏
15:10～15:20	休憩	
15:20～16:30	障害者の権利擁護と成年後見制度の概要について(講義)	椋山女学園大学 教授 手嶋 雅史 氏 (名古屋会場) 東三河後見センター 工藤 明人 氏 (岡崎会場)

○アンケート結果

(名古屋会場) ※アンケート回収率 98%

	とても参考に なった	参考になった	どちらともい えない	あまり参考に ならなかった	参考にならな かった
研修の目的と虐待防止法の概要	92 (51.7%)	80 (44.9%)	5 (2.8%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)
虐待防止のためにあなたができること	64 (36.2%)	102 (57.6%)	9 (5.1%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)
自身の支援の振り返り	77 (43.8%)	85 (48.3%)	11 (6.3%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)
アンガーマネジメントを活かす	136 (97.1%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
権利擁護と成年後見制度の概要	62 (36.9%)	84 (50.0%)	19 (11.3%)	3 (1.8%)	0 (0.0%)

(岡崎会場) ※アンケート回収率 89%

	とても参考に なった	参考になった	どちらともい えない	あまり参考に ならなかった	参考にならな かった
研修の目的と虐待防止法の概要	39 (45.9%)	45 (52.9%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)
虐待防止のためにあなたができること	33 (39.3%)	44 (52.4%)	6 (7.1%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)
自身の支援の振り返り	37 (44.0%)	43 (51.2%)	1 (1.2%)	3 (3.6%)	0 (0.0%)
アンガーマネジメントを活かす	51 (94.4%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.2%)
権利擁護と成年後見制度の概要	14 (17.5%)	44 (55.0%)	16 (20.0%)	4 (5.0%)	2 (2.5%)

(全体) ※アンケート回収率 94%

	とても参考に なった	参考になった	どちらともい えない	あまり参考に ならなかった	参考にならな かった
研修の目的と虐待防止法の概要	131 (49.8%)	125 (47.5%)	5 (1.9%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)
虐待防止のためにあなたができること	97 (37.6%)	146 (56.6%)	15 (5.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
自身の支援の振り返り	114 (43.8%)	128 (49.2%)	12 (4.6%)	6 (2.3%)	0 (0.0%)
アンガーマネジメントを活かす	187 (96.9%)	3 (1.6%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
権利擁護と成年後見制度の概要	76 (30.9%)	128 (52.0%)	35 (14.2%)	7 (2.8%)	0 (0.0%)

現在の職種

設置者	7人	(4.0%)
管理者	51人	(29.5%)
従事者	104人	(60.1%)
その他(サビ管等)	11人	(6.4%)

左記職種の職務経験年数

1年未満	25人	(14.7%)
1～5年	94人	(55.3%)
6～10年	29人	(17.1%)
11年以上	22人	(12.9%)

現在の職種

設置者	3人	(3.6%)
管理者	17人	(20.5%)
従事者	59人	(71.1%)
その他(サビ管等)	4人	(4.8%)

左記職種の職務経験年数

1年未満	13人	(15.5%)
1～5年	46人	(54.8%)
6～10年	17人	(20.2%)
11年以上	8人	(9.5%)

現在の職種

設置者	10人	(3.9%)
管理者	68人	(26.6%)
従事者	163人	(63.7%)
その他(サビ管等)	15人	(5.9%)

左記職種の職務経験年数

1年未満	38人	(15.0%)
1～5年	140人	(55.1%)
6～10年	46人	(18.1%)
11年以上	30人	(11.8%)

○出欠状況

(名古屋会場)

出席者	181人
欠席者	23人

(岡崎会場)

出席者	95人
欠席者	9人

(合計)

出席者	276人
欠席者	32人

障害者虐待防止に係る本県の取り組み

資料 3

○感想・意見等（一部抜粋）

①研修の目的と虐待防止法の概要

- ・虐待が身近なものではないため、あまり考えたことはなく大まかなことだけ理解してきたが、とても重要なことだと再認識できた。
- ・虐待への意識「そんなつもりではない、軽い気持ちでの言動」とそれを見逃してしまう周囲の雰囲気気が怖いと思いました。グレーを適切な方向へ持っていく意識を持っていきたい。
- ・自分は虐待していると思う支援がある。本人主体の支援をもう一度しっかり考え、今後の支援を続けていきたい。知ることを今以上に続けていく。
- ・通報することをもっと身近なものとして捉えないといけないと感じた。
- ・普段の忙しい業務の中で一番忘れてはいけない利用者さんの「基本的人権」について再認識するいい機会になりました。

②虐待防止のためにあなができること

- ・まずはマニュアルを職員に周知すること。全ての職員に向けての研修が必要。まず、「虐待とは」から始めないといけないことを再認識した。
- ・虐待チェックリストをすることで、虐待について考えさせられた。グループワークを通して他の事業所での取り組み等も知れたので良かった。
- ・自事業所の弱点・改善点が明らかになったので持ち帰ってスタッフと共有したい。
- ・事業所・法人とに分けて問題点と良い点を考えた。自己評価分析ができ、虐待というフレーズに反応しすぎる部分もあり、利用者さんとのコミュニケーションに少し恐さを感じていたため、対「人」として、明日から頑張ろうと思った。
- ・チェックリストにて評価すると意外とできていない項目があり、自己ワークで今後やってみたいことをまとめられたことが良かった。

③自身の支援の振り返り

- ・自分の支援を振り返り虐待と思ってしてはいないが、、あれ？もしかして虐待なのかな？と振り返るとあるかもしれないので、自分の振り返りは研修などをきっかけに気づけたらいいと思う。
- ・KJ法は実際に取り入れているので効果を体感していたが、他施設の方の意見を聞いたことが新鮮だった。講師の法人の虐待防止研修の取り組みは参考になった。これから取り入れていきたいと思う。
- ・一つ一つの事例を考え、絶えず支援の振り返りをする、職員同士のコミュニケーションを密にし、お互いの支援をサポートできる関係性の構築が重要だと感じた。
- ・自分では利用者さんのために仕方なく行ったことでも虐待という一つの言葉でまとめられるのは少し残念だと思う。
- ・改めて事業所で振り返ると会場で振り返るとではいろんな考えや観点があって、いい学びとなった。

④アンガーマネジメントを活かす

- ・怒りについて考えることで自分の怒りのパターンを知ることができました。怒ることを否定するのではなく上手に付き合っていけるように意識していきたいと思う。
- ・普段の生活や仕事の場において冷静でいることの大切さを改めて実感しました。何事においても少々大きな気持ちをもって取り組んでいかなければならないと思った。
- ・その時頭に来たことでも、他人に話すとたわいもないことで笑えるレベルだった。頭にきても6秒他のことを考え怒りを鎮めるようにしたい。
- ・職員のストレス対策、自分の管理者としての態度・管理などに活かしていきたい。
- ・初めて今回の研修で知りました。とても興味深かった。
- ・明日からでも実行できることが多く職員に行ってもらい何を考えているのか知りたい。
- ・思考のコントロールは普段から自分自身で意識していることだったが、職員とグループワークで使用することはなかったのが新しい視点だった。そして、職員の出した答えからマニュアルを作っていくことは実践していきたい。

⑤権利擁護と成年後見制度の概要

- ・間違った成年後見制度の使われ方はされていないか？利用者の意思決定はそこに組み込まれているのか？今一度たくさんのお話で考え直すことがあり、勉強になった。
- ・自分の中で旬な話題である。ご本人の意思、表明を第一とする。受信側の精度を磨いていくという点を今一度心に留めておく。
- ・難しいところもあったが、勉強になった。難しいところは自分で調べていきたい。
- ・成年後見制度は「黒衣」に徹することが大切で、支援者が本人より前に出ることがないように。
- ・知的・精神障害者の意思決定・尊重するための支援は難しい。支援する側の価値での判断や自己満足にならないか、セルフチェックが常に必要だと思った。「保護の客体」ではないという意識を無意識に持つように。
- ・「成年後見制度利用推進とは、成年後見制度利用者数を増やすことではなく、制度を適正に利用できるように推進する」という内容を知った。